

カンボジア国内におけるデング熱の現況

2015年10月6日

概要

昨年同時期と比べ、今年は患者の大幅な増加が記録されています。今年になって、全国で少なくとも24人の死亡例を含む7,800人以上の患者が報告されています。大半の患者の年齢は5才から14才までです。流行地域としては、プノンペンとコンポンチャム、コンポントム、コンポンスプー、プレイベン、シェムリアップ、バンテイメンチェイです。

デング熱

デング熱は、熱帯及び亜熱帯地域でみられるウイルス性疾病で、熱帯シマ蚊に刺されることによって広まります。熱帯シマ蚊は住居の内部や周辺によくみられ、日中ヒトを刺します。蚊が広める他の疾病と異なり、デング熱は都市部でもよく見られます。

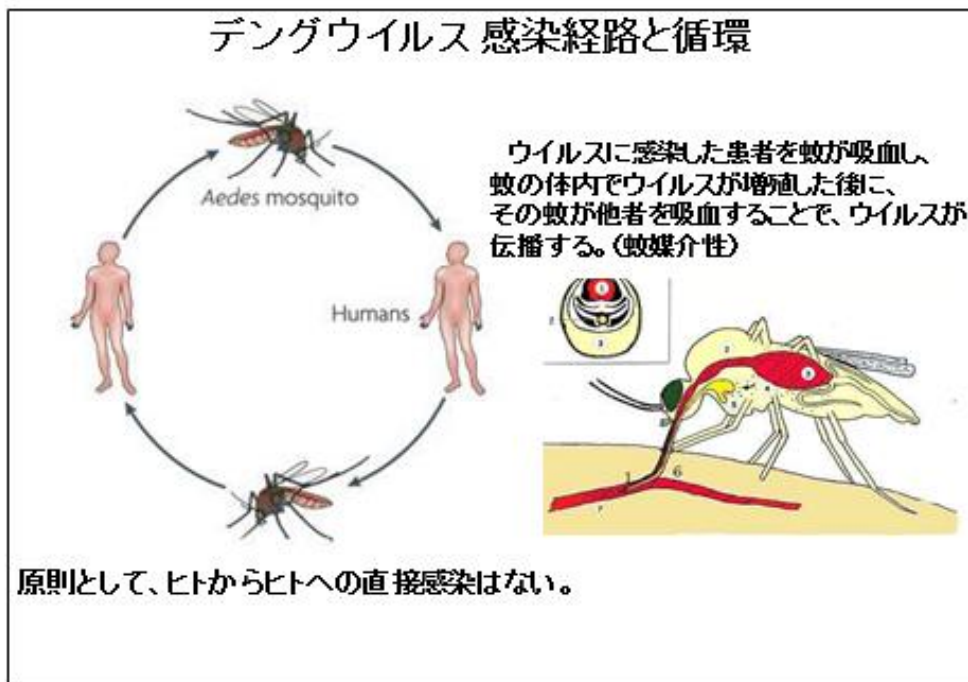
デング熱は筋肉痛や骨の痛み、関節痛を引き起こす特徴があり、その強い痛みから、「break-bone fever」と呼ばれています。その他には、高熱や激しい頭痛、眼球の奥の痛みといった症状があります。また、その後、しばしば発疹が出現します。このような急性疾患は長くて10日間持続し、完治までは2~4週間かかることがあります。ワクチンも特別な治療法（例：インフルエンザにおけるタミフルやリレンザ）はありませんので防蚊に心がけて下さい。

防蚊対策

- 屋外では、長袖、長ズボン、ソックスなど身体のほとんどを覆う衣服を着用してください。
- ディート (DEET)、ピカリジン (Picaridin)、PMD あるいは I R3335 を含む効果的な虫除け剤を使用してください。
- 窓に網戸があることを確認してください。蚊が部屋にいるときは即効性の殺虫剤をスプレーして、蚊を駆除してください。

診断/治療

デング熱に対しては、ワクチンも特効薬がなく、治療としては一般に対症療法（解熱剤アセトアミノフェン投与）が行われます。重症に至らない場合が多く、死亡率は1パーセント以下であると言われています。悪寒（震え）が伴う高熱、高熱後の発疹症状がみられる場合には、デングの診断のみならず、その予後（血小板輸血の可否）や他の熱性疾患（インフルエンザ、腸チフス、非常に稀ですがマラリア）との鑑別が必要になりますので、医療機関を受診して下さい。



デング出血熱

デング熱患者のうち5%程度が、デング出血熱という重篤な病気に至ることがあります。デング出血熱は、口や鼻等の粘膜からの出血を伴い、死亡率の低いデング熱と異なり、通常でも10パーセント前後、適切な手当てがなされない場合には、40～50パーセントが死亡すると言われていています。デング出血熱は発熱して2～7日後に発症することが多いようですが、デング熱にかかった人がデング出血熱になるかどうかは事前に予測ができません（大人よりも小児に多発する傾向があります）。